

研修だより



世羅町立せらひがし小学校
研修だより 第6号
令和元年7月1日

1学期の研究授業が全て終わりました。授業評価表を早くに提出して頂き、ありがとうございました。数学的な見方・考え方を働かせる授業づくりのヒントが、少しずつ見えてきたのではないかなと思います。夏休みまでに、E×テストにも取り組みましょう。E×テストに取り組む前には、類似問題に取り組んでから、実施した方が良いと思います。



1 授業評価表より (%)

授業内容についての評価					
	質問内容	よい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
①	導入段階において、児童が能動的に学ぶことができるような課題設定の工夫をしていたか。	40	60	0	0
②	めあてとまとめが一体化していたか。	10	80	10	0
③	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援を行っていたか。(視覚化, 共有化, 焦点化等)	30	70	0	0
④	「数学的な見方・考え方」を育成する発問や場面設定であったか。	30	60	10	0
⑤	「ふりかえり」の場面を設定し、「学び方」を学ぶふりかえりができてきたか。	10	70	20	0
⑥	ねらいは達成できたか。	0	40	60	0

児童についての評価					
	質問内容	よい	まあまあよい	あまりよくない	よくない
①	主体的に学習に参加していた。	50	50	0	0
②	目的に応じて適切に自分の考えを表現しようとしていた。(発言, 書く活動など)	20	70	10	0
③	学び合いの場面で他の児童とのかかわりをもった発言をしていた。(つなぎ発言や質問, 反論など)	20	80	0	0

2 指導講話より

- ・主体的・対話的で深い学びというのは、あくまで授業改善の視点。
→つけるのは、学習指導要領に示されている算数科の力
- ・低学年のうちから、図に表す経験をさせる。
→低学年からの積み重ねが「しこみ」になる。
- ・適応題を最後にする。
→特別支援学級の児童は特に、成功体験で終わることができるようにする。
- ・難しい単元だからこそ、校内研修でやると良い。

指導案について

- ・「苦手なことがどうすればできるか」を書く。
→苦手なことが強みになるように指導をする。

説明する場面

- ・図と式を結び付けるだけでなく、問題文と図を結びつけて説明させる。

<平成30年 教育センターの研究報告から>

算数科における児童のつまずきを解消する学習指導に関する研究
— 文章題解決過程に着目した分析を通して —

文章題を指導するに当たっては…

- ①文章題の難しさがどこにあるのかを理解した上で、指導に当たること。
- ②児童のつまずきを適切に把握すること。
- ③児童のつまずきに応じた手立てを行うこと

◎指導の手立て

「文ごとに区切って提示する」

「動作化させる」

「視覚的（絵や図）に示させる」

「線分図やテープ図等、数学的な表現で示させる」

(http://www.hiroshima-c.ed.jp/center-new/kenkyu/shoin/h30_shoin/h30_101.pdf より引用)

<今後の取り組み>



★10日（水）教材研究について

低学年部：毛利・森安・川田・重森

高学年部：中井・田坂・福川・延安

特別支援部：森政・森重・吉岡・重谷

※指導書のコピーを人数分用意しておきましょう。理科室で行います。